融和時報

本紙定價一部三錢（郵税共）
廣告料 十三字詰一行九十錢〇一頁金拾五円〇四分ノ一頁六拾円〇半頁百[illegible]〇[illegible]百八十円（指定面二割増）
編輯發行兼印刷人 赤堀郁太郎
印刷所 東京市牛込區榎町二六〇番地 有文社印刷所
發行所 東京市麴町區大手町一ノ七 內務省社會局內 財團法人 中央融和事業協會 振替東京七〇〇八六番 電話丸ノ內23四六八〇番

總選擧に際して
全國同憂の士に告ぐ

吾等の豫想せる如く、第六十議會は政府與黨たる政友會が衆議院に於て少數なる爲めその政策遂行に不便なりとの故を以て、遂に解散せられ、來る二月二十日を期して、全國一齊に總選擧が行はれる事となり、今や、花々敷政戰の幕は切つて落され、全國津々浦々に至るまで選擧戰場は展開せられ、候補者や、その運動員は、言論戰に、將又、文書戰に多忙を極めて居る。

◇

此秋に際して、融和事業關係者としての吾等の特に留意すべき重要事項は何か？。

吾等は、世人の問題に對する、正しき認識を深め、その解決に對して、自ら責任を感じ、之が爲めに努力せんとする熱意を增さしめ、これが反映して、問題の徹底的解決の爲めの各種の施設が擴充せられん事を熱望するの餘り、此重要なる機會に於て、深甚なる考慮と決意とを以て、總選擧に臨まんことを自ら覺悟すると共に全國の同志に要望する者である。

◇

第一に考慮すべきは、來る總選擧には、融和問題に對して、正當にして且つ充分なる理解を持ち、心底より問題の解決の爲めに努力を盟ふ人を一人でも多く議會に送る事である。前代議士の中には吾等の運動に助力したる人々も數名ある。是等の人々を再び當選せしむべく極力援助するは勿論、更に我等の同志の中より、又問題に理解深き新人中より新らたに打つて出づる人々の一人でも多からん事を切望する。

第二に考慮すべきは、候補者の中には苦るしいときの神賴で、苦戰に際しては、その場限りのお世辭を云ひ、空手形を發行して、投票を獲得せんとする者もあらん、かゝる場合に於ては、その人の平素の態度、實行を視れば、眞に問題の理解者であるか否か、直ちに分かる、一時の巧言に眩惑せられて、悔を後に遺こすことのなき樣戒心すべきである。

◇

次に吾等の忘れてはならぬことは、吾等の淸き一票が、問題解決の鍵を握るものなることを自覺し、一時的の感情や、詰らぬ情實に絆だされ、又は一椀の羹に眼を暗まされて、怨まれる投票を爲すが如きことあらんか、それは明かに神聖なる問題を冒瀆する自殺的行爲であることを知らなければならぬ。かゝることによつて、此機會を逸せんか融和問題の解決は永久に未來のものとしてその影を沒するであらう。

慾を云へば限りなきも、せめて、上下兩院に於て、只一人宛にても、融和問題に終始する我等の完全なる代辯者を得るならば、問題の現狀より數歩否數十步の進展を見るであらう。（秋峰生）

在職「七年」を顧る

藤野　惠

中央融和事業協會が設立せられてから早くも七年、融和事業の全生命の上からは相當に長いとも短いとも見られるであらうが、とまれ協會創立のときから關係者の一人として其の施設計畫の一部に與つた私としては忘れ難い七年の經過である。

× × ×

中央融和事業協會が創立せられた當時は、融和事業團體そのものゝ組織は未だその揃ひ得ないものとも思はれた。即ち中央に於ても全國的に同一目的の下に働く關係の存するものがあり、又地方に於ても府縣を單位とする融和團體は僅かに十二三を算するに過ぎざる有樣であつた。然るに今や中央團體の合同歸一は實現を見、地方の團體も三十五を算するに至つて居る。その間或は協會の法人組織を見或は特に奬勵金御下賜の恩命を拜する等大いなる事實として記憶に刻まれたことも少くないが、これらの事實を今一々追憶することは暫く措いて、この七年間が私に敎へた私の最も大きいことの二三を述べさせて戴き度い。

× × ×

經驗の乏しい私ではあるが少くとも私が過去十數年の官吏生活に於て融和事業に關與したことは私として又とない尊い經驗であつたことを只管感得せざるを得ない。それは一に融和事業の有する絕對性とでもいふべきものに依る心的迫力でもあらう。それは決して役人としての經驗ではなくして、人間としての修鍊であり敎示であつた。

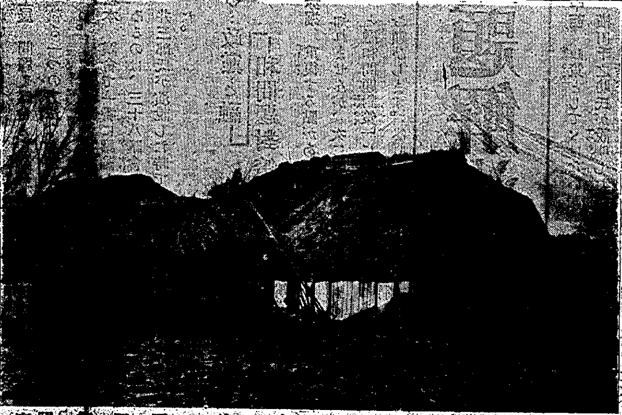
融和事業の當面する一切の問題と事實との中に、常に見出すことは時代と社會とに規制せられた人間の苦惱であり戰ひである。それ故に融和事業の經驗的尊嚴がいやが上にも感受し重視することを禁じ得ないのであつた。只一つ卒直に白すことを許されるならば眞に差別された人の心持ち傷みといふものは絕對にその人のみに依つて知覺されるものであつて、その他の誰がこれを知ることは出來ないのだといふことである。私は斯樣に訴へられ、覺され、敎へられた。事業關係者としてゞなく、人間としての私が時あつて逢着した問題事實の前に如何に憤激悲傷の感を有つたとしても、それは遂に被差別者その人の感じとは[illegible]つたものだといはれる。これが七年の融和事業に關する經驗の上に常に私を淋しくし、失望せしめ空虛を感ぜしめた事實であつた。けれ共私は何一の希望を有つことが出來た。自らの傷心公憤といふことが、それだけ自分を同時に又人としての自分の良心を高める由り所であり段階であることを確く信じた。空虛を感ずる私の心は屢次斯く考へて自らを勵まし勵まして來たことであつた。

× × ×

融和事業に關係する私として常に自らの力と勇氣とを與へられたことは、凡そ事業に關係する程の人々としての惱みに對する同じ心持を有つ人々であつたことである。樣々の仕事の關係から接する人々の多い中に就いても、融和事業關係の人々こそは考へ方と立場とに於て多少の相違こそあれ、歸する所は人としての惱みに堪へ難い良心の傷みを有つ人々であることが、年を重ね交りを深くするに從つて彌々私を力付けて與れたのであつた。私はともすれば餘りにも重大な仕事の性質と空疎に對する自省とから惱へ勝ちな自分を鞭つ爲めには多くの融和事業の先輩や知友の力を求めるより致方がなかつた。只これらの先輩知友の方々の熱と勇氣とに依つて自らを勵まし勵まし七年を知らずして過したことを今更の如く思ひ起して限りない感謝の念に打たれるものである。

× × ×

客歲末測らずも轉職を命ぜられた關係から私としては長い間お世話になつた協會から職を斥くことゝなつたけれども過去に於ける融和事業に關係したことから得た尊い經驗と示敎とは終世私の忘れる事の出來難いものであると同時に尙今後に於ても例へ職務上からの關係は從前の如くでないとしても一個の同人として更に先輩知友の敎へを受け自らの修養としてこの融和事業の爲めに自分を役立たせ度いものと祈つて居る次第であります。



二月の「富士」岡田紫陽寫

雜感

◇滿蒙問題の聲

滿蒙問題の喧しい聲と一緒に暮を閉ぢた一九三一年。その追憶に耽る人の心そう云ふ聲に、やゝともすれば呑まれて行きさうな、人格價値の高唱、融和促進への努力。世間は、實際、利害をあらはにしない事件のためには親切でも、正直でもない。寧ろ狡猾でさへある。

◇問題の中心は移行しつつある

地方にゆくと、大びらに改過遷善の言葉を用ひて居る者すらある。改善時代の祟りであらう。

◇よく聽く疑問は

一體何時になれば理想の日が來るのかと云ふ。その問者が理想を持たないのだから始末におへない。

◇お座なりの答辯否詭辯

常に詭辯で通してゆく者は、自分の周圍を全く詭辯の泡沫と化して了つて居る。

理想なくして、自ら運動者なるかの如く語る者はその手合である。

◇誰が惱んで居るのか

問題に對して然も若き兄弟にして猶且つ何處に風が吹くかと云ふ態度の者を見る。

いた〳〵しい限りである。

◇人格が傷けられると云ふ事實に

全く明盲目の者が多い。彼の運動は冷靜なる傍觀者或は批評家のびんじゆくを買う。怖ろしいのは、斯くして事實を冒瀆してゆくことだ。

◇興味の焦點は

こゝにあるか。興味を感じない處に、人を集めやうと云ふのは、ソモ〳〵間違ひである。

然るに融和運動に興味を持つ者が少い。

%にして見れば無興味、無關心なのが國民の九十九であらう。その點では、明るさを與へてゆくことが何より大切である。

融和運動者は、救はれぬ大衆のあることを念頭から忘れ去ることが出來ない。だからと云つて、その中から救はれゆく人の姿、開明に赴きつゝある社會の曉に對して希望と喜びを人一倍持たねばならない。

私共は、希望の烽火を、此處彼處、家、字、村落、町々、至るところに點じてゆく者ではないか。

謂はゞ嘗ては改善時代の點燈夫であつた。

けれど曉と共に不用の燈火は消して行くのぢやないか。

◇曉の鐘を撞く人

それが少年であれ、少女であれ青年學徒であれ、勞働者であれその響をこそ擴大してゆかうではないか、

一九三二年の家每の窓よ、朝の快い冷氣の中で目を醒ませ。

曉の鐘よ、朗に鳴り渡れ（興）

編輯後記

△喜田博士に物を訊く會を催した。興味と實益、何れも百%。掲載は本月號の積りであつたが紙面の都合で來月號に割愛した。

△或日の座談會は早急の思ひ附で、他に名士を招く暇もなく本協會同人が中心となつて語りあつた。選擧と融和問題對策としては相當參考にはなつた物柄が物柄だけにその全部が發表できなかつたことは遺憾だつた。多分讀者もその邊の消息は御推測もあらうとは思ふが…。

△第四回國民融和日が廻つて來た。此の日我等は根限り努力しあらん限り對策をめぐらして、大擧大宣傳を爲すべき日だ。「用意はよいか」期日の切迫し來れると共に自他相勵したい氣持。